

①ヤエン釣りスタイル

抵抗物がほとんどない状態で餌のアジを泳がせることから食いのよさは抜群。しかし、アジを抱いたイカへとヤエンを届けてフッキングさせるまでは釣ったとはいえません。そのヤエンがうまく掛かるか、掛かるまでにアジが放されるか、といったドキドキ感を味わえる独特の釣趣が一番の魅力。仕掛け自体はシンプルなので、手持ちの一般的な餌釣りタックルがあればチャレンジ可能です。

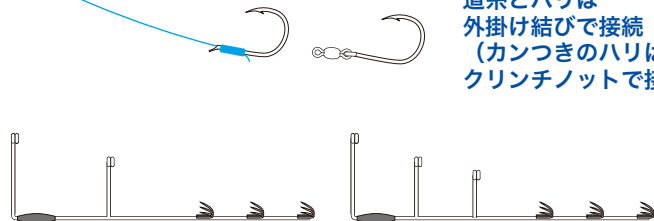
道糸：ナイロン、フロロ2～3号

水深が浅い釣り場なら比重の軽い（沈みにくい）ナイロン、水深が深い釣り場や風があるときは比重の重い（沈みやすい）フロロという具合に使い分けるといいでしょう。また、底の形状が荒くて根ズレの心配があるなら耐摩耗性に優れるフロロを使うと安心です。春のアベレージとなる1 μ クラスの良型が相手なら2号で十分です。ただ、2 μ を越える大型が期待できる状況やシモリなどの障害物が多い場所では3号の使用も視野に入れましょう。

ハリ：チヌバリ4～5号、伊勢尼6～7号、サルカンつきの専用バリ

餌のアジをセットするためのハリです。一般的な15 μ 前後の生きアジならチヌバリ4～5号や伊勢尼6～8号がマッチします。また、仕掛け回収時などにアジが回転することで起こる道糸のヨレを防げるサルカン（ヨリモドシ）つきの専用バリもおすすめです。これを使うことでライントラブルやヤエンの進行がわるくなる不具合を防ぐことができます。

道糸とハリは
外掛け結びで接続
(カンつきのハリは
クリンチノットで接続)



ヤエンM～Lサイズ

より高いフッキング率を求めするためにさまざまなアイテムが市販されています。まずは難しいことを考えず、2～3点式で掛けバリが3つついたスタンダードなタイプを選びましょう。ただ、使用するサイズはきちんと選ぶ必要があります。ターゲットや使用する餌のアジのサイズに合わせていなければ、掛けバリがイカの胸に届かないことがあるからです。ターゲットが1 μ クラスまではMサイズ、2 μ を越える大型はLサイズというのが1つの目安です。回遊しているターゲットのサイズがわからない場合はMサイズを基準にし、反応を見きわめたうえで変更を考慮しましょう。なお、ヤエンは意外とロストすることも多いため、最低でも3本は用意したいところです。

磯竿1.5 μ 前後

ヤエン投入後はラインの角度に高低をつけながらゆっくりとヤエンを送る操作を行なうことから、角度調整の幅を持たせられる5 μ クラスの長さの磯竿が最適です。また、沖めでアジを抱かせたときは、ヤエンが届くラインの角度を確保できる位置までイカを寄せせる必要があるため、違和感を与えにくいやわらかさを持つ号数が求められます。イカのジェット噴射にも耐えうるパワーも備えた1.5 μ クラスを選択するのが賢明といえます。

スピニングリール、 またはリヤドラグタイプの スピニングリール2500～3000番

道糸2～3号を150 μ ほど巻ける2500～3000番クラスで、スプールの反転音にてアタリを察知しやすいドラグの滑り性能がよいタイプが理想的です。

アタリを待つときやイカが走ったときはスプールが反転するように緩め、ヤエンが掛ければスプールが反転しないようにきつめという具合に場面ごとにドラグの調整をかけるのがヤエン釣りの基本の1つです。スタンダードなスピニングリールはスプール前部のノブをその都度回してドラグの強弱を調整する必要があります。その点、専用のリヤドラグタイプはイカの抵抗に応じてやり取り中に糸の出具合を調整しやすいリヤ側にドラグノブがついているうえ、ワンタッチでドラグの強弱をかえられるレバーを備えているので便利です。不意のジェット噴射に対し、前部にあるドラグのようにラインに触れることによって起こるトラブルのリスクを排除できるのは大きなメリットといえます。